

令和2年度

学校評価総括表

奈良県立青翔中学校

奈良県立青翔高等学校

(別紙1)

令和2年度

学校評価総括表

奈良県立青翔中学校・青翔高等学校

学校運営計画(4月)		総合評価
教育目標	<p>本校の教育は、法に定められた根本精神と、本県学校教育の指導方針に基づき、豊かな人間性や社会性を培うとともに、科学的な思考力と創造性を身に付け、科学技術の発展と進歩に寄与する心身ともに健全な人間の育成を目指す。</p> <p>(1) 豊かな知性と感性をもった思いやりのある人間性を育てる。                      (2) 科学的な思考力を培い、自ら学び、自ら考える力を育てる。                      (3) 個性の伸長に努め、意欲的な進路実現を目指す。                      (4) 日々の生活の中から共生の精神を養い、幅広い社会性を育てる。                      (5) 生涯にわたって自らの健康と安全を維持できる実践力を育てる。</p>	B
運営方針	<p>全ての教職員の持てる力を結集し、明るく元気でさわやかな学校づくりを目指す。そして、出会いと学びを大切にして、新たなものを自ら創造し(Create)、粘り強く挑戦し(Challenge)、様々なものをつなぐ(Coordinate)ことのできる生徒の育成を目指す。また、開校7年目の青翔中学校の円滑な運営と特色ある学校づくりに向け、県教育委員会とも連携して取り組む。</p>	
令和元年度の成果と課題	<p>本年度重点目標</p> <p>具体的な目標</p>	
<p>全国初の理数科単科高校として開校して16年が経過。この間、理数科の特色ある様々な教育活動の取組と成果が評価され、文部科学省から2期10年にわたってスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けた。また、タイ国の姉妹校、王立サイエンスハイスクールとの共同研究および国際学会での発表など理数教育を中心に国際的な交流を進めてきた。</p> <p>SSH指定研究を軸として、学校設定科目「スーパー探究科学」の成果を各学会において発表し、各種コンテストにも積極的に参加するとともに、実績を着実に積み上げつつある。</p> <p>併せて規範意識の醸成、生徒会活動、課外活動、部活動など生徒の活動の活性化に向けての取組を引き続き推進しなければならない。令和2年度入試における進路実績は国公立合格者が39名中13名であった。</p> <p>SSH2期5年目を迎え、実績・成果を目に見える形にし、さらに発展的に積み上げる努力が求められるとともに、教科間の連携、教科横断的な取組、地域との連携等に力を注ぎ、奈良県中南部の進学拠点校としての役割を果たす必要がある。</p> <p>また、併設する奈良県初の県立中学校の学校経営を軌道に乗せ、魅力と特色のある中高一貫教育校となるよう取り組まなければならない。</p>	<p>開校7年目を迎えた青翔中学校の存在価値と評価を確立するため、中高一貫教育校としての将来を展望した魅力と特色ある学校運営を目指す。</p> <p>県教育委員会指導の下、青翔中学校の施設・設備、教育課程、その他教育環境等を整えていく。6年間を見通した中高一貫教育の内容を明確にし、特色ある学校の教育情報を、ホームページの充実等を通じて積極的に発信し、小学生及びその保護者、県民等への広報活動を展開する。</p> <p>研修に対する意識の高揚を図り、公開研究授業を実施し、情報の共有化と共通理解を推進する。青翔中学校と青翔高等学校を一体としたリーフレットの作成、学校だよりの発行、ホームページの充実等による積極的な広報を展開する。また、教員の学会発表など外部での発表を推奨していく。</p> <p>探究活動の充実にも積極的に参加する(延べ120人)。また、本校独自の理数科教育システムを活用し、国公立大学及び難関私立大学理系学部への進学者20名以上を目指し組織的に進路指導に取り組む。</p> <p>タイのサイエンスハイスクールと共同研究を実施し、生徒・教員の交流に積極的に取り組み、タイ姉妹校で行われる「発表会」に参加する。また、国際学会にも参加する。中学校でのSSH事業の展開について検討し、発達段階に応じた実践を推進する。</p> <p>生徒一人一人の人権感覚・人権意識を高め、人間としての生き方や在り方を考えさせ、明るく温かい人間関係を醸成する。</p> <p>HR活動を充実させるとともに、学校生活のあらゆる場面で、基本的生活習慣の確立ときめ細かな生活指導を行う。</p> <p>全教育活動に道徳教育の観点を入れ、規範意識を高め国や地域社会を愛するための地域活動、ボランティア活動等にも積極的に参加する。</p> <p>家庭学習の定着を図り、基礎学力とともに高度な学力を計画的に育成する。土曜・長期休業中の学力向上講座、ステップアップ講座、学力補充講座等を実施する。課外活動(授業)「青翔アラカルト・ワークショップ」を実施し、科学的な思考力の育成に努める。また、教材研究、指導法や評価について指導主事の招聘や教育研究所の講座を活用し積極的に研修に努める。</p>	
	<p>教職員は、教育専門職としての自覚のもとに、常に研鑽に努め、指導力の向上を図るとともに、各々のもつ特性を生かして、中高一貫教育を展望したカリキュラム・マネジメントの確立に努める。</p> <p>自ら探究する力や伝える力を身に付けさせ、生徒が夢を実現できる学校づくりに努める。</p> <p>SSHの取組の一環として、タイのサイエンスハイスクールとの交流を発展させる。</p> <p>地域との連携を一層充実させ「地域の学校」を目指す。</p> <p>中学校において、SSHの取組を段階的に取り入れ、生徒が理数系教科等に興味・関心を抱くようにする。</p>	
	<p>生徒の自主性を育て、互いに認め、高め合う集団づくりに努める。豊かな知性と感性をもった思いやりのある人間性を育てる。</p> <p>人権を尊重し合える集団の確立と、自他を敬愛する心や公共心・道徳心、規範意識および国や地域社会を愛する心の醸成に努める。</p> <p>教科指導力を高め、ねらいを明確にした授業及び指導法の研究・実践に努め、生徒の基礎学力の定着と応用力の向上を図る。さらに、教科指導を通じ、科学的な思考力の育成に努める。</p>	
	<p>生徒が抱える問題の早期発見、早期解決に努める。生徒理解に努め潜在能力を発見し引き出し、実体験をとおして「努力」が「よろこび」や「やりがい」につながる成就感や達成感を体得させるとともに、探究心や向上心を育む。</p> <p>部活動の活動状況や部員数等から、中学校中心の活動にシフトする。進路指導・教科指導法等、中高一貫教育に対応できる、教員の意識改変と「力」の育成に努める。</p>	
	<p>日常の教育活動を点検し、学校・家庭・地域の連携をさらに深める。生徒の実態を的確に把握して、個に応じた適切な指導・支援に努め、健全な発達を促す。</p> <p>学校経営・運営上のあらゆる場面から課題を見直し、その対策・改善に取り組む。</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析） 及び改善方策				
教 務	中高一貫教育の6年間を見通し、生徒の発達段階に応じた指導法と制度の確立を図る。	6年間の生徒の特徴や発達段階を視野に入れた学校行事の計画や新学習指導要領につながる効果的な教育課程の作成に取り組む。 生徒にとってより教育効果が高まるよう、行事計画を見直し、学校行事の精選を図る。	A	A	S S H事業としてサイエンスイノベーターの育成を目指すため、中高一貫6年間を見通した学習に基づく教育課程の編成を行った。 中学校での先取り学習を考慮した学習内容と効果的な指導法について研究し、授業実践した。	編成した教育課程をより効果的に実践するために、教員の資質向上を目指した研修を行い、授業改善を進めなければならない。	中高一貫の6年間を見通した学習とS S Hに基づいた理数科教育を二本立てとした教育課程の編成に取り組み、選択科目の設定等の工夫により、生徒の希望に対応した幅のある教育実践を進めている点が評価できる。				
		先取り学習等も含めた中高一貫の効果的な指導法の確立に取り組む。	A								
	ねらいを明確にした授業を実践し、思考力・応用力を高める指導に取り組む。	授業公開を行い、自己の授業を振り返るとともに、他の教員の授業を参観し、研修を深め、指導力の向上に取り組む。	A	A				年1回の授業公開期間と年2回の授業参観による事例研修を行った。授業公開期間外でも授業見学する様子が見られた。 ルーブリックを取り入れたシラバスを活用する授業を全教科・科目において実施することができた。新学習指導要領の観点を先取りし、評価として取り入れた。	ルーブリックを取り入れたシラバスを用いて、生徒の意欲を喚起する授業実践の研究が進んでいるので、これらの成果を共有し全校体制で進めなければならない。	年2回の授業公開に加えて、評価やカリキュラム・マネジメントについての研修を随時行っている。観点別評価やルーブリックを取り入れた評価をもとに生徒の学習への意欲を高める実践に取り組んでいる。	
		シラバスを活用し、日々の授業のねらいを明確にし、分かる授業を実践し、指導法や評価についての研修を深めるとともに、情報の共有化と共通理解を図る。	A								
	生徒の基礎学力の定着を図り、学習意欲を高め、主体的に学習する力の向上を図る。	個別指導や学力補充講座等を実施し、きめ細かい指導により、生徒個々の基礎学力を高める。	B	A				長期休業中の集中授業や学力補充講座を行い、基礎学力の向上に努めた。振り返りシートの活用や生活アンケートの実施により、生徒の様子を把握し、指導に活用した。アンケートによると平日少しでも学習する生徒は、中学生で94%、高校生で93%であった。	主体的に学習する態度を育成するために、生徒の実態を把握し、生徒に学習への興味・関心を高められる授業の研修を進め実践しなければならない。		生活アンケートの結果に「入学させて良かった」という保護者の声が多いのは喜ばしい。
		生徒の実態を把握し、ルーブリックによる評価をもとに、主体的に学習する態度を養う。毎日、家庭学習をする生徒が80%以上となることを目指す。	A								
生徒指導	現在取り組んでいる全校体制による生徒指導をより一層、強化・推進し、基本的生活習慣の定着と規範意識の積極的啓発を図る。その結果として、生徒自身が誇りをもてる学校づくりを目指す。	校門指導・昇降口指導・校内巡視などを毎日行い、生徒とのコミュニケーションを図る中で、生徒理解に繋げ、規範意識の高揚を図る。	A	B	高校において、SNSに関するトラブルがあったが、問題行動や特別指導は少なく、生徒たちは落ち着いて学校生活を送っている。一方で、中学生の発達段階における「想像力」の欠如から、自分の言動が周囲に与える影響に思いが至らない生徒が多いのも現実である。引き続き、集団の中で自分が果たす役割を考えさせ、他人に迷惑をかける心を持った生徒の育成を心がけたい。 不注意による入室遅れや、特定生徒の遅刻によるイエローカードの記入数が多い。基本的な生活習慣確立のため、家庭との連携を密にし、保護者の協力を得る必要がある。また、スマホやゲーム機などの使用について、学校や保護者の連携が必要になってきている。	今年度はコロナの影響で、生徒の意識高揚に効果的な、中学生集会や高校生集会、全校集会や講演会などを活用することができなかった。次年度も継続した状態が想定されるため、担任の先生方の朝や帰りのショートホームルームの時間をうまく活用して、継続的な生徒への訴えかけを行っていく。教員間の情報交換や保護者との連携を効果的に行う。特に初期対応に際しては、迅速かつ慎重を期す必要がある。	校門指導や昇降口指導、校内巡視等を行う中で、全教職員が生徒とのコミュニケーションを通して生徒理解を図り、規範意識の向上に取り組んでいる。今後はその取組のさらなる充実を期待する。  今年度は女子の防寒着規定を見直しタイツを導入した。生徒会と連携しながら、制服の着こなし等の話し合いを良い方向で進めている点が評価できる。				
		時間厳守の精神を徹底し、遅刻や入室遅れの絶無を目指す。挨拶を励行し、元気できびきびした生活習慣の確立を図る。	B								
		様々な行事や集会等の機会を通じて、帰属意識と愛校心の高揚を図る。	B								
	中1から高3までの学年の幅にわたる生徒が安心して登校し、生活できる学校を目指す。	カウンセリングマインドを持って、生徒の悩みを積極的・共感的に受け止め、これに応える指導や助言を与える。人権教育部、養護教諭、及びスクールカウンセラーとの連携を密にして、早期発見・早期対応に努める。	B		勉強すること、人間関係を構築し維持すること、自分の気持ちをコントロールすることに苦しんでいる中学生が多い。今すぐ解決しようとするよりも、時には、発達段階を考慮して、長い目で見守る、	学校や生徒を取り巻く環境が刻々と変化する現在、専門家による教員向けの講演会を企画し、現状に見合った生徒への関	生徒の実態をアンケートなどでよく捉え、教職員間で共通理解のもと、連携協力して生徒指導に取り組んでいる。				

<p>生徒指導</p>		<p>教員と生徒の人的ふれあいを大切に、生徒一人一人の個性・特徴を生かし、大切に、内面に迫る指導を心掛ける。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p> <p>待つという姿勢も教員側に必要であるのかもしれない。効果的な指導や助言を行う難しさも感じている。2学期始めに、「こころと生活等に関するアンケート」を実施し、専門家を交えた協議会をもつことができた。2学期末には県のいじめアンケートを実施し、担任による詳細な聴き取りも行った。深刻なケースは報告されていない。ほとんどの生徒がスマートフォンを使用しているため、LINEなどのアプリによるトラブルの報告もあった。周囲に対する配慮や想像力などについて考える機会を持たせたい。</p> <p>朝の校門指導と昼休みの校内巡視を全校体制で行っている。</p>	<p>わり方を学ぶ機会とした。</p> <p>朝の校門・昇降口指導、昼休みの校内巡視、定期的な校外巡回指導などに加え、教員からの一方的な啓発だけでなく、生徒会が主体的に働きかけることのできるような雰囲気作りをしていきたい。</p>	
<p>保健体育</p>	<p>体育活動を通して、健康の意義を踏まえ、健康の維持増進、体力づくりを基盤に「生きる力」を育む。</p> <p>授業を通して、体育行事への積極参加と主体的な行動を促す。</p>	<p>教職員自らが健康の維持増進・体力づくりの必要性を共通理解し、授業の安全性を踏まえ積極的に工夫改善に努める。</p> <p>運動・スポーツに主体的に取り組むことにより、体を動かすことの大切さや喜びを体感するとともに、自らの健康を維持できる実践力を育てる。特に体育行事に対しては、100%の参加率を目指す。また、社会の一員としての役割を意識させ、地域の催しやボランティア活動への参加を促す。</p> <p>中高一貫教育の特性を踏まえ、集団での「個」を自覚させ、協調と責任ある行動をとれるよう中学生と高校1年生の集団行動に重点を置く。また、高校2・3年生においてはリーダーの育成を目指し、主体的かつ能動的な取組を促す。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>B</p> <p>本年度はコロナ禍でのオンライン授業や感染防止対策をとりながらの授業において、生徒が体を動かすことへの興味・関心をもてるのかという点で、様々な運動の方法や伝え方の工夫を行った。</p> <p>本年度は体育的行事や地域の催しへの参加やボランティア活動等はコロナ禍のためほぼ行うことが出来なかった。部活動も制限された中であつたが、各部ともに感染防止対策をとりながら積極的に活動した。</p> <p>3密を避けながらではあるが体育の授業だけでなく通常の学習活動や部活動等を通して集団での規律ある行動をとれるようになった。しかし、グループ学習や行事等が少なかったことから、リーダーの育成が不十分であつた。</p>	<p>本年度は制約のかかった中で生徒に体を動かすことの楽しさ・大切さを伝えることの難しさを実感する一年であつた。自他の健康を守るため、教員・生徒ともに感染防止対策をとりながらの行動を余儀なくされた。来年度からも、いかなる状況下でも自他の健康と安全を守る力をつけていけるように、授業や行事だけでなく、普段の学校生活全般を通して指導していきたいと考える。</p>	<p>授業や行事を工夫して、体を動かすことやスポーツの楽しさを体感させてもらっているが、体力と運動能力向上をさらに推進してもらいたい。</p> <p>コロナ禍の中、トレーニングやストレッチ等の動画配信を行ったことは評価できる。</p> <p>例年通りの避難訓練等はできなかったが、非常時に適切な対応ができるよう、日常の安全管理に努めている。</p>
	<p>保健活動を通して、何よりも「健康」であることの大切さを自覚し、自らを改善していく資質と能力を育む。</p>	<p>各種検診（健康診断）において100%の受診率を目標に、日程や時間帯の調整を図り、受診しやすい環境づくりに努める。</p> <p>生徒の健康保持・増進のため、生活実態調査を行うとともに、保健だより等により健康管理の重要性の周知や各検診の完全受診を促す。また、個々の生徒へのアドバイス・個別指導の充実を図る。</p> <p>欠席者サーベイランスを活用し、各種感染症へ迅速に対応する。また、カウンセリングの推進・充実を図り、生徒の心のケアに努める。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>A</p> <p>休校期間があつたため、全ての検診を9月に実施した。3密を避け、学校医も手指消毒を頻回に行うなど感染症対策を行った。</p> <p>定期健康診断実施が遅れたことと受診を控える保護者もいることから、各検診後の勧告は一度に留めた。継続的な観察が必要な生徒の状況確認と保護者との連携に努めた。</p> <p>感染症予防のため、昼食時の手洗い・手指消毒と、教室の換気を徹底した。</p> <p>人権教育部と連携し、カウンセリングが必要な生徒について実施した。</p>	<p>来年度も引き続き手洗い、手指消毒、教室の換気を徹底し、感染症の予防に努める。高校生は目が届きにくいので、特に注意して予防する。定期健康診断も今年度と同様の対策を講じて実施する予定である。受診控えにより治療の遅れにつながるよう、学校医と連携し、必要に応じて受診を勧める。</p>	<p>欠席者検診の機会をつくったことにより、ほぼ全員の生徒が内科検診等、健康診断を受診することができた点は評価できる。</p> <p>基本的な生活習慣を確立させる指導を継続し、心身ともに健康な生徒の育成に努めてもらいたい。</p>

人権教育 特別支援教育	様々な人権問題についての認識を深め、より充実した実践に努める。 生徒が精神的な成長をするような関わりをする。	様々な人権問題についての研修を深め教職員が共通理解を持って人権教育に取り組む体制を構築する。年1、2回の職員研修を実施し、校外の研修にも積極的に参加する。	B	B	B	校内の職員研修は、5月「いじめ」7月「事例検討会」9月「特別支援」について実施。校外の研修はコロナ禍のため縮小されたが、リモートでも随時参加。	様々な課題に対して、適切な対応ができるよう一層研修を深める。 中学、高校6年間を見通したLHR計画の見直し。中学では道徳教科と連携しながら人権教育のさらなる充実を目指す。	中・高の6年間を見通した計画的な人権教育により、生徒の人権意識が向上している。さらなる取組の充実を図ってもらいたい。	
		生徒の実態に即した人権LHRや講演会を企画・立案する。生徒が自他を尊重し、よりよく生きる態度を養うために教科と連携する。翔人研等の生徒の活動の活性化に努める。	B			終戦後75年での平和学習として、長崎からリモートの講演会実施。本校の平和大使県代表生徒からのアピールを支援。人教部の作成した指導案でHRを展開。	不登校や発達障害等については専門的な外部機関との連携を深めながら対応する。教職員の共通理解を図りながら、別室の計画的な運営や内容の充実を目指す。	担任、中・高の統括とスクールカウンセラー、コーディネーターとの連携が図られており、生徒の悩みや問題等に適切に対応できている。今後も教職員の共通理解を図りながら、対応力の向上に努めてもらいたい。	
	支援が必要な生徒を支える学校の体制づくりに努める。カウンセリングの充実を通して、的確な生徒理解と適切な支援に取り組む。	生徒一人一人の実態や状況を把握し、それぞれの生徒の成長を促す支援に努める。課題を抱える生徒には、早期に個別の対応を関係者と連携して進める。	A			A	不登校、家庭状況、学習面等、生徒が抱える課題を把握し、担任・スクールカウンセラー・県教委・子ども家庭相談所・医療機関等と連携し、個々の生徒に適切な支援ができるように努めた。		
		スクールカウンセラー、担任、家庭、外部機関などと連携して、支援を必要とする生徒等のケアに努める。	A				要配慮生徒のための別室が設置され、教科担当や支援員等と連携し対応。		
文化図書	文化祭を通して文化教育の充実と活性化を図り、クラスの団結力を一層強める。	文化委員がクラスの中心となり、まとめていく存在となるよう文化委員会の活性化を図る。また、生徒の意見を企画・運営に反映させながら、生徒が作り上げる文化祭を目指す。	A	A	A	文化祭を制限のなかで実施。生徒会役員や有志生徒が動画を作成、例年より時期を遅らせて教室のスクリーンで鑑賞した。パンフレット作成や芸術作品の展示も行った。	前年度の構想とは全く違った形での文化祭となった。次年度も同様の環境であれば、今年度の発表形式をもとに文化的に質の高い内容としたい。	「コロナ禍だからこそできることを」という発想で行った文化祭はすばらしかった。すべての生徒が積極的に関わり、達成感を得られる文化祭であった。	
	読書指導の充実を図る。	新入生への図書室オリエンテーションを実施する。年9回の『図書室だより』の発行等、図書委員会活動の活性化を図る。 図書室に「テーマによる展示コーナー」を年10回設け、生徒の関心を高める工夫を行う。	A			図書室オリエンテーションを動画視聴というかたちで実施した。『図書室だより』を年間9回発行した。時事や季節、授業に関連した本等のテーマ展示をした。図書室の机にアクリル板を設置し、40人が同時に利用できるようにした。	図書室では、感染症対策を今年度に引き続き徹底する。	読書好きな生徒が多く、読書感想文や感想画コンクール等で優秀な成績を収めている。今後も継続して読書指導に力を入れてもらいたい。	
環境整備	自主的な清掃活動を推進し、生徒の美化意識の向上を図り、学校環境の美化を推進する。	日常の学校生活で、ゴミの持ち帰り等のゴミの減量化や分別を徹底する。リサイクル運動に取り組み、環境美化の意識を高め、快適な学校環境の実現を図る。	A	A	A	活動量が少なかったため、ゴミの量が減った。日々の清掃活動は熱心に取り組めた。ゴミの分別にも一定の成果があった。	次年度クラス増により清掃分担を変更する。日々の清掃活動はこれまで通りに実施していく。	教員の業務多忙のため、通学路清掃が実施されないことは致し方ないように思える。それに代わる美化活動を検討してもらいたい。	
		年2回の「花いっぱい運動」を通して、生徒の美化意識の向上を図り、地域との関わりを深める。	A			6月はコロナ禍で業務員さんが定植した。10月は中間考査最終日に中高を分けて生徒による定植を実施した。	「花いっぱい運動」は中高の実施日を分けて計画する。		
広報活動	適切な広報活動を展開する。	塾などを訪問し、全職員の協力のもと、県内の小学生・保護者等に本校の特色や活動内容をよりよく知ってもらう取組を重ねる。	A	A	A	第1学期は訪問ができなかったため、資料を郵送した。12月には塾などを訪問し、本校の特色等を伝えた。	コロナ感染状況を見ながら具体的な広報活動を考える。	ホームページ等を活用して青翔中・高の実績や活動を広くアピールしてもらいたい。	
		パンフレット等の作成、ホームページの更新などにより広報活動を活性化させる。	A			パンフレットを作成し、広報活動の資料とした。			
渉外	育友会活動の充実と活性化を図る。	年2回の広報紙『翔揚』を発行して、広報活動の充実と研修会等の活性化を図る。保護者との連携を密にしながら、行事への積極的な参加を促進する。これにより、保護者と教職員の協力体制による教育活動を実践する。	A	A	A	『翔揚』は2回発行した。多くの行事が中止になったため、紙面が少なくなった。育友会総会を书面決議で実施した。予定された活動がほとんどできず、図書カードを購入し生徒に配付した。	保護者が学校で集まる機会がなく、育友会学級委員を決める際に学級担任の負担となった。次年度は学級委員の引き継ぎを円滑に行う工夫をする。同窓生への連絡方法を考える。	コロナ禍のため、一堂に会しての総会等を実施できなかった。実情に応じて育友会や同窓会の活動も見直すべきであろうと思う。	
	同窓会（まほら会）活動の充実と活性化を図る。	総会と評議員会を隔年実施し、まほら会評議員とクラス幹事との連携を強め、卒業生の同窓会行事への積極的な参加を促し、同窓会活動の充実を図る。	B			6月に総会を予定していたが、「秋以降に延期」の案内はがきを出し、ホームページでもその旨を連絡した。結局、開催されずに年度末を迎えた。			

<p>国際交流</p>	<p>将来グローバルに活躍できる理数系人材の育成のため、校内外における国際交流プログラムを推進する。</p>	<p>海外研修を年3回実施し、視野を広げ、国際人としての素養を身に付ける機会とする。 タイ姉妹校との交流プログラムを通して、相互理解を深める。訪問と受入を年1回ずつ、オンライン交流を年3回実施し、理数科教育のさらなる発展を目指す。 フランスなどから年数回の訪日団の受け入れを行い、校内における英語での国際交流プログラムを実施する。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>コロナ禍で外国との直接の行き来が全くできなくなった。 オンラインでは、高校生の有志がフランスの高校生と1回交流できた。タイ姉妹校生徒との交流もオンラインのみで、中2～高2の生徒が1回体験した。</p>	<p>次年度も相手国と連絡を取りあって、可能な範囲内での工夫をして、国際交流をすすめていきたい。</p>	<p>コロナ禍で例年通りとは行かなかったが、WEBを用い、活発に交流されたようで、喜ばしいことである。</p>
<p>ICT</p>	<p>ICTの環境整備を通して学校業務の円滑化とICT教育の活性化を図る。</p>	<p>校務用端末やメールの活用方法などICT全般について、職員研修などを通じて周知徹底し、これらを活用した学校業務の円滑化を図る。 各教室のICT機器やデジタル教材の準備を遅滞なく行い、ICTを活用した教育の活性化を図る。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>G Suite for Education 活用のための職員研修を実施し、休校期間においても全校体制でICTを用いて教育を継続することができた。 年度内に中学生に1人1台端末を、全普通教室に電子黒板を配備し、視聴覚室のフラット化などのICT環境の整備が完了する予定である。</p>	<p>次年度より中学生1人につき1台の端末を使用可能となるので、全校体制で活用できるように職員研修等を実施したい。</p>	<p>ICT機器やデジタル機器については慎重に対処していただきたいが、GoogleやZoomを活用したオンライン授業やリモートによる行事のさらなる充実を望む。</p>
<p>進路指導</p>	<p>個々の生徒の個性の伸張に努め、意欲的に進路実現を目指す主体的な学習習慣を身に付けさせる。</p>	<p>学力推移調査・スタディサポート等により生徒の学力・学習習慣を的確に把握し、その向上を図る。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>コロナ禍の休業期間の学習支援として、中学1年生から高校1年生で導入したスタディサプリを、通常登校になったのちも苦手分野の克服等に活用している。 高校で昨年度始めたジェネリックスキル（リテラシー・コンピテンシー）の測定を試験的に中学で実施した。 生徒たちは最後まで自己の受験目標にこだわり頑張り抜いた。国公立大学及び難関私立大学の受験実人数は26名。（国公立大20名、関関同立16名。（2月8日現在）安易な考えで指定校推薦に流れる生徒はなく、指定校推薦は0名であった</p>	<p>各種のアセスメントや学習結果の現状を、生徒も教員も分析し、強み弱みを捉えた上で、進路発見・進路実現の取組を進めていく。 スタディサプリについては、来年度も継続していく。ジェネリックスキルの測定結果の活かし方について継続検討していきたい。</p>	<p>中・高6年間を見通した計画的・組織的で細やかな進路指導が行われており、順調に結果が出始めている。 高3の保護者としては、在宅学習のフォローをしてほしかった。 進路実績をHP等を用いて広く周知してもらいたい。</p>
<p>理数科の特色を生かし、中高6年間を見通したキャリア教育を推進し、将来の進路を展望させる。</p>	<p>中高間や学年間で密接に連携をとりながら、発達段階に応じた6年間のキャリア教育を推進し、各生徒が早い段階で自分の進路を定めていけるよう個別の支援を一層進める。</p>	<p>生徒の進路希望を的確に把握し、情報過多にならないよう必要な進路資料を取捨選択し、整理した上での提供に努める。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>コロナ禍の中で4月進路講演会のいち早いWEB開催、外部会場模試の校内実施や自宅解答への変更、中学の職場体験を職場見学に変更、WEB上の進路イベントの紹介など、制限された中で出来ることを模索した。 また、クロームブックの貸出により個々のWEB活用環境の支援もできた。 高校生は再開された冬期休業中インターンシップに7名参加。 入試の変更が次々となされ、生徒自身が正確な情報をとらえることが難しい状況のもと、2学期以降Google Classroomを活用し、高1・2には十数回、高3には五十数回、進路情報の提供を行った。</p>	<p>生徒が主体的に情報収集を深め、自分の進路を定めていけるよう、個々の生徒のニーズに合わせた情報収集と情報提供を行い、小規模校である強みを活かした個別の支援を一層進めていく。</p>	<p>中高一貫教育校、SSH指定校にふさわしい進路実現を期待したい。特に、理系学部への進学者増を望む。また、医学部や薬学部に進み、地元に貢献するような人材を期待したい。</p>

理数SSH部	「青翔スパイラルアップ・プログラム」、「青翔グローバル・コミュニケーション・プログラム」、「青翔エクスペリエンス・ラーニング・プログラム」の3つを体系的に結び付けることにより、科学技術系グローバル人材を育成する。	「青翔スパイラルアップ・プログラム」に基づき、本校SSHの根幹となるPDCAサイクルを重視した科目「スーパー探究科学」(中学校では「数学探究」「理科探究」「探究基礎」)に関する研究及び実践を推進する。全学年で生徒の相互評価を実施し、全担当教員が生徒の変容を数値データで見取れるようにする。	A	A	高等学校「スーパー探究科学」はもちろん、中学校「探究基礎」に至るまで、ルーブリックによる指導と評価の一体化を推進できた。 生徒の自己評価・相互評価活動については、高等学校1・2年生について実施できた。	次年度SSH第Ⅲ期からは、6年間の体系的な探究活動の構築を進めた。	SSHの取組により、理科・数学だけでなく、英語についても生徒の興味・関心が伸びてきている。今後も生徒の総合的な学力向上を目指して、事業のさらなる改善・工夫を期待する。 生徒が身に付けた力を分析し、その評価を生徒と共有してもらいたい。
		「青翔グローバル・コミュニケーション・プログラム」に基づき、SSH科目「スーパーサイエンス英語」「グローバル・コミュニケーション」に関する研究及び実践を推進するとともに、科学英語の活用能力に自信を持つ生徒の割合を70%以上に増加させる。	A		SSH科目「スーパーサイエンス英語」「グローバル・コミュニケーション」を通して、8割を超える生徒が科学英語の知識プレゼンテーション力が身に付いたと答えている。	SSH第Ⅲ期では、英語のSSH科目の時間数が減るが、生徒の国際性が一層上がるよう工夫をしたい。	
		「青翔エクスペリエンス・ラーニング・プログラム」に基づき、SSH科目「SA数学」「SL国語」に関する研究と実践を行う。また、教育課程の発展的取組を行う。課外活動「青翔アラカルト・ワークショップ」については、教員・生徒双方の負担軽減の観点から外部講師による講座を増加させる。	B		A	SSH科目「SA数学」「SL国語」については、生徒対象の意識調査より、それぞれ情報収集力・分析力および論理的思考力が身に付いたことがわかった。 課外活動「青翔アラカルトワークショップ」については、コロナ禍の影響でほとんど実施できなかった。	課外活動「青翔アラカルトワークショップ」では、生徒の主体性を高めると同時に教員の負担軽減のため、生徒が講師になる講座も検討したい。
SSH第1期からの成果を県内外の中学校・高等学校に普及し、全国でも数少ない理数科単科高校としての特色を明確にするとともに、地域の理数教育拠点としての役割を果たす。	7月に行う「サイエンス・ギャラリー」、2月に行う「SS探究科学研究発表会」については、時間対効果を重視しつつ、内容の充実を図るとともに、来場者数を昨年度よりも増加させる。また、評価については、教員と生徒で共通理解を進めるとともに、他校にも普及させる。	A	A	「サイエンス・ギャラリー」については、オンライン開催となったため、遠方の参加校もからも申込みがあり、盛況のうちに終了した。 発表会の評価規準についても、全学年共通の内容で、生徒に事前に示して実施することが出来た。	今後も続くであろうオンライン発表会での質疑応答の方法には、工夫が必要である。	SS探究科学研究発表会をはじめとする数々の成果発表会における日本語、英語による発表内容及び発表態度は評価が高く、新聞等各種メディアにも大きく取り上げられている。今後も指導の充実に努めてもらいたい。	
	6月に行う「青翔サイエンスクエスト」については、今年度はWeb開催とすることで、オンライン教育の可能性を研究する。また、50名以上の小学生の参加を目指す。	B		今年度の「青翔サイエンスクエスト」はオンラインの個人参加としたため、参加者が28名に減ってしまった。	奈小理などと連携し、小学校への行事の広報方法を検討したい。	また、国際交流プログラムをさらに活発に展開してもらいたい。	
	SSH第Ⅲ期目申請に向けて、全校での推進体制を整え、他校へその方法を普及するとともに、新学習指導要領に沿った新しい研究開発主題を考案する。	A		県教育委員会や運営指導委員の指導・助言により、新しい学習指導要領に沿ったSSH第Ⅲ期目の研究開発の骨子をまとめることができた。	今後も県教育委員会との連携により、研究開発の成果普及を図りたい。		
中学第1学年	基本的な生活習慣を確立し、集団の中で目的を持って活動できるようになる。	全員がしっかりと挨拶ができるようになる。「早寝、早起き、朝ごはん」をモットーに、健康な体をつくり、十分な睡眠と朝ごはんを100%摂って登校できるように指導する。欠席、遅刻をしないように指導する。遅刻は学年全体で年間60回以下にする。	B	B	積極的に挨拶ができる生徒が増えてきている。 朝食を毎日食べている生徒は84%で、昨年(80%)と比べて上昇している。 多くの生徒が規則正しい生活を身に付けている一方で、遅刻は2学期末で1組が90回、2組が33回であり、目標を達成できなかった。 不登校の生徒もおり、特定の生徒の遅刻、欠席の多さが目立っている。	規則的な生活習慣を確立するために、家庭とも協力して指導を継続する必要がある。 集団の中で自分の役割を責任をもって果たし、より良い集団を作っていくことができるように引き続き指導する必要がある。特に、通学マナーやSNS上でのトラブル防止に向けて継続的な取組が必要である。	学年当初、登校できない期間があったが、家庭や関係諸機関と連携しながら、よりよい集団づくりに取り組んでいる。集団行動のルールやマナーを身に付け、落ち着いた学級集団となっている。
		クラスの役員、係の自覚を持ち、全体のために努力する態度を養う。 掃除に真面目に取り組む態度を養う。自ら考え工夫しながら、教室や学校全体の美化に取り組む。	A		B	クラスや学校全体のために努力する意識が芽生えてきた。学校への満足度も高く、アンケートでは、91%の生徒、92%の保護者が満足と答えている。 様々な経験を積みながら、集団生活の	

		クラスや上級生との関わりの中で集団生活のルールやマナーを学ぶ。			ルールやマナーを学び、自分たちで品格を高める努力ができるようになった。		
	将来について考え目標を持って、計画的に学習に取り組む態度を養う。	授業を中心に据えて学習する習慣を付けさせ、授業の復習を大切にするように指導する。また、課題等の提出を徹底させる。家庭学習の習慣を定着させる。家庭での学習の開始時刻を固定させ、毎日計画的に家庭学習に取り組む態度を養う。	A	B	授業を大切にし、自ら学習する習慣が身に付きつつある。平日に家庭学習を2時間以上している生徒の割合は32%で、昨年(15%)に比べてかなり上昇している。この傾向を今後も維持したい。ただ、家庭学習が不十分で、課題等の提出が遅れてしまう生徒が固定化されてきた。	保護者の協力を得ながら、家庭での学習習慣を定着させることが最重要課題である。将来に向けて目的を持って自ら学習に取り組むように指導するとともに、宿題や課題をきっちりとこなすように粘り強く指導を続けたい。	継続的な指導により、規則正しい生活習慣に基づいた学習習慣が定着してきている。
		将来の進路や自身の適性について考え、目的を持って学習に取り組めるようにする。学力推移調査ではGTZが各教科ともB1以上を目指す。また、Sランクの生徒を5名以上にする。	B		学力推移調査のGTZは、英語がB1、国語と数学がB2であり、Sランクの生徒は4名であった。目標達成に向け、生徒一人ひとりの学力レベルの向上に努めたい。		
中 学 第2学年	基本的な生活習慣と礼儀作法を身に付け、集団の中で互いに助け合い、高め合うことができるようになる。	全員がしっかり挨拶ができるようになる。「早寝・早起き・朝ごはん」をモットーに、健康な体をつくり、十分な睡眠と朝ごはんを100%摂って登校できるように指導する。場に応じた言葉遣いで話すことができるようになる。欠席、遅刻をしないように指導する。遅刻は学年全体で年間60回以下にする。	B	B	職場見学等の経験を積み、場面に応じた言葉遣いができるようになった。朝食を毎日食べている生徒は71%で昨年(78%)と比べ下降している。多くの生徒が規則正しい生活を身に付けている一方で、遅刻は2学期末で1組が107回、2組が33回であり、目標を達成できなかった。不登校の生徒もおり、特定の生徒の遅刻、欠席の多さが目立っている。	規則的な生活習慣を確立するために、家庭とも協力して指導を継続する必要がある。集団の中で自分の役割を責任をもって果たし、より良い集団を作っていくことができるように引き続き指導する必要がある。	今後も、基礎学力の定着に向けて家庭学習を習慣化させる指導を家庭の協力を得ながら、粘り強く続けてもらいたい。
		クラスで自らの役割をしっかり果たし、クラスや学校のために協力できる態度を養う。クラスの仲間を大切にし、互いの個性を認め合い、高め合える集団づくりを行う。学校のルールを守り、上級生としてふさわしい態度で学校生活を送らせる。	A	B	2年生になり随分と落ち着いて行動できるようになってきた。様々な行事のなかで、集団行動のルールやマナーを習得してきている。その一方で、まだまだ公共心や他者に対する寛容の心を身に付けなければならない生徒もいる。	安心安全で充実した学校生活を送ることができる集団になるよう継続指導していく。	生徒の学力をさらに伸ばせるよう、指導の一層の充実を期待する。
	主体的に学び、計画を立てて学習する姿勢を身に付けるとともに、思考力や表現力の基礎を養う。	予習復習を徹底し、基礎学力を定着させる。日々の家庭での学習内容を充実させるため、毎日1時間半以上の学習を習慣化させる。また、課題やレポートに計画的に取り組ませ、提出期限を守らせる。将来の進路目標について具体的に考えさせるとともに、自らの考えや意見を適切に表現し、伝える基礎力を養う。学力推移調査ではGTZが各教科ともB1以上を目指す。また、Sランクの生徒を5名以上にする。	A	B	平日に2時間以上家庭学習に取り組んでいる生徒は21%であり、昨年(14%)と比べ改善している。また、朝学に落ち着いて取り組む生徒も多いので、この傾向を維持できるように指導を継続したい。学力推移調査のGTZは、国語と英語がB2、数学がB3で、他の学年と比べて低い状況にある。併設の理数科高校に進学することを踏まえ、特に数学の学力向上が急務である。	授業の予習・復習に取り組むことができている生徒が増えてきている。この習慣をさらに定着させるとともに、取組が学力アップにつながるよう学習の質の向上を目指したい。	
集団の中で互いに助け合い、高め合うことができるようになる。	全員がしっかり挨拶ができるようになる。「早寝・早起き・朝ごはん」をモットーに、健康な体をつくり、十分な睡眠と朝ごはんを100%摂って登校できるように指導する。欠席、遅刻をしないように指導する。遅刻は学年全体で年間60回以下にする。	B		敬語や挨拶だけでなく、場面に応じた対応ができるようになってきた。多くの生徒が規則正しい生活を身に付けている一方で、遅刻は2学期末で1組が46回、2組が16回であり、目標を達成できなかった。また、不登校の生徒も複数おり、高校進学に向けて心配な部分が多い。	高校進学に向け、基本的な生活習慣を確立することを最優先課題とし、家庭とも協力して指導を継続する必要がある。集団の中で自分の役割を責任をもって果たし、より良い高校生となれる	心と体を鍛え、よりよい青翔高校生となれるよう、継続的な指導に取り組み、落ち着きのある学級集団に育ってくれている。	

中 学 第3学年		<p>クラスの役員、係の自覚をもち、全体のために努力する態度を養う。</p> <p>クラスの仲間を大切にし、互いの個性を認め合い、高め合える集団づくりを行う。</p> <p>学校のルールを守り、上級生としてふさわしい態度で、学校生活を送らせる。</p> <p>中学校の最高学年としてリーダーシップを発揮し、学校生活のあらゆる場面で中核的な役割を果たすことができるように指導する。</p>	A	B	<p>まだまだ落ち着きが足りない生徒もいるが、最上級生として、中学校の様々な行事の中でリーダーシップを発揮できるようになってきた。学校生活を通して集団行動のルールや社会マナーを着実に習得している。</p> <p>クラス内でそれぞれの役割をしっかりと果たし、助け合いながらお互いを高め合う心を身に付けている。</p>	<p>ように引き続き指導する必要がある。</p> <p>安心安全で充実した学校生活を送ることのできる集団になるよう継続指導していく。</p>	<p>難関大学進学を見据えた生活・学習指導により、生徒の学力は着実に向上してきている。</p>
	<p>将来の進路や自身の適性について考え、目的を持って学習に取り組めるようにする。</p> <p>進路実現のため目標を持って、計画的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>授業を中心に据えて学習する習慣を付け、授業の予習と復習を大切にするように指導する。また、課題やレポート等の提出を徹底させる。</p> <p>日々の家庭での学習内容を充実させるため、毎日2時間以上の学習を習慣化させる。</p> <p>各種コンテストや検定に積極的に参加させる。</p>	B	B	<p>平日に2時間以上の家庭学習に取り組んでいる生徒は11%で、昨年度(8%)よりは少し向上したが、高校進学に向けてまだまだ家庭での学習時間が不足している。最高学年でありながら、家庭学習の時間が3学年で最も少ないのが課題である。</p> <p>また、課題提出がなかなかできない生徒が固定化してしまっている。</p>	<p>6年制の学校の多くが抱える「中だるみ」という最大の課題を抱えている。大学進学や自己の将来像を見据えた学習ができるように指導していきたい。</p> <p>加えて、成績上位者の成績が更に伸びるように指導していきたい。授業を中心に据えて新しい大学入試に対応できる学力を身に付けさせたい。</p>	
		<p>大学への進学を意識し、将来の進路や自身の適性について考え、目的を持って学習に取り組めるようにする。</p> <p>学力推移調査ではGTZが各教科ともB1以上を目指す。また、Sランクの生徒を5名以上にする。</p>	A		<p>自分の将来や大学進学について少しずつ考え出しているが、目的や目標をもって学習に取り組めるようになってきている生徒はまだ少数である。</p> <p>学力推移調査のGTZは、英語がB1、国語と数学がB2であり、Sランクの生徒は6名いる。Aランクの生徒数が着実に増えてきているので、学習量が増えると更なる学力アップが期待できる。</p>		
高 校 第1学年	<p>高校生としての規範意識と、中高一貫の4期生として、責任を持った行動のとれる生徒を育成する。</p>	<p>・挨拶の励行と時間厳守の習慣を身に付けさせる。また、学校や社会のルールを守る規範意識を養い、実践できる力を付ける。</p> <p>・基本的な生活習慣について指導する。特に、在宅教育期間中の生活習慣を90%以上の生徒に確立させるよう、働きかける。</p> <p>・「早寝、早起き、朝ごはん」を督促する。95%以上の生徒が朝食を摂るように指導する。</p>	B	A	<p>元気に挨拶ができる。清掃にも熱心に取り組んでいる。ルールやマナーについては、全員が理解できているが、74%の生徒しか責任ある行動をとることができていない。行動が伴うように指導していきたい。</p> <p>朝食をきっちり摂っている生徒は83%であった。遅刻や欠席が少ない学年である。今後とも継続していきたい。</p>	<p>ルールやマナーについては、理解するだけでなく、行動できる実践力を身に付けられるように、指導していく必要がある。</p> <p>基本的な生活習慣が確立できるように、家庭とも協力して地道に継続して指導していく必要がある。</p> <p>行事等の集団活動に積極的に参加させるように、機会を増やしていきたい。</p>	<p>基本的な生活習慣の確立と社会性の育成に継続的に取り組み、生徒の意識は高まってきている。</p> <p>異年齢の交流を積極的に行ってもらいたい。</p> <p>大学入試への意識付けと学力向上に取り組み、着実に成果をあげている。</p>
		<p>学級活動、学校行事や校外活動への積極的な参加を促し、集団行動を通じて仲間づくりの大切さを認識し、社会性やコミュニケーション力を養う。</p>	A		B	<p>積極的に参加しているのは46.0%であった。来年度は中心学年として頑張ってもらいたい。元気の良い学年であり、集団行動を通して仲間作りを続けて欲しい。</p>	
	<p>自己を見据えた進路目標の実現に向け、様々な学習活動に積極的に取り組む姿勢を育成する。</p>	<p>・授業や家庭学習の大切さを理解させ、継続的な課題に取り組み基礎学力の定着を図る。また、成績向上に向けた積極的な姿勢も養う。</p> <p>・課題やレポート等の提出を徹底させる。特に、在宅教育期間中の提出を働きかける。</p> <p>・授業やホームルーム活動、SAW、進路講演会などを通じて、生徒全員に目標を設定させ、積極的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>・各種コンテストや検定に積極的に参加する。</p>	B	B	<p>平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒は、9.0%しかいなかった。</p> <p>課題やレポートなどの提出状況は比較的良い。教員の粘り強い指導が功を奏している。</p>	<p>家庭学習の時間確保について、継続的に指導していきたい。</p> <p>基礎学力も身に付けて、来年度は全国偏差値55以上を目指して頑張らせたい。目標についても、徐々に考えさせていきたい。</p>	
<p>自己の行いを客観的に捉えることができるとともに、周囲との関係を理解し規律ある行動のとれる生徒を育成する。</p>	<p>・挨拶の励行と積極的なコミュニケーションの習慣を育む。学校や社会のルールを守ることの大切さについて理解させ、実践できる力を養成する。</p> <p>・基本的な生活習慣について指導する。特に、在宅教育期間中の生活習慣を90%以上の生徒に確立させるよう、働きかける。</p>	B	B		<p>元気に挨拶ができる。ルールやマナーについては、全員が理解できているが、65.7%の生徒しか責任ある行動をとることができていない。今後も、実践力を養成していきたい。</p> <p>特定の生徒が遅刻欠席をくり返しており、学校からのサポートが必要である。</p>	<p>規律ある行動がとれるように、折に触れて啓発を続けていく必要がある。</p> <p>基本的な生活習慣が確立できるように、家庭とも協力して地道に継続して指導</p>	<p>学校行事や学級活動をとおりして社会性や規範意識が向上しており、今後も継続的な指導が望まれる。</p> <p>中・高一貫の青翔中学・高等学</p>

高 校 第2学年		・「早寝、早起き、朝ごはん」を督励する。95%以上の生徒が朝食をとるように指導する。		B	朝食を全く摂っていない生徒はいない。	していく必要がある。 来年度は最高学年として、下級生の範となる行動をとることができるよう指導したい。	校の生徒として世間の注目を浴びていることを自覚させ、より高い進路目標を持たせ、その実現を図ることができるよう指導に当たってもらいたい。	
		クラスでの活動および部活動や学校行事への積極的な参加を促し、社会性を養成する。自らの言動に責任を持ち、相手を思いやる態度や行動がとれるようになる。	B					
	進路目標の実現に向けて、様々な学習活動に積極的に取り組むことができる生徒を育成する。	授業や家庭学習の大切さを理解させ積極的に取り組む姿勢を育成し、基礎学力の定着と大学入試合格のための応用力を養成する。本年度は、特に理科・社会の取組の重要性に気付かせる。校外模試等において、各教科の全国平均偏差値55以上を目指す。	B					
	授業やホームルーム活動や面談を通じて、またオープンキャンパスにも積極的に参加を促し、進路の目標を設定させる。さらに第一希望大学の合格に向けて、学習計画を立て粘り強く取り組める力を養成する。	A	A		平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒は、25.7%しかいなかった。これから大学入試に向けて、家庭学習全体の増加を指導していく必要がある。全国模試の各教科の全国平均偏差値は53以上となり、概ね良好である。	進路目標を高く持ち、モチベーションを持ち続けられるように支えていく必要がある。	受験が目前に迫ってくるとプレッシャーやストレスが増大するので、家庭と連携したケアが必要である。	
高 校 第3学年	最高学年としての自覚を持たせ、自立と自律を促し、責任ある行動を実践させる。集団への帰属意識の確立を促し、社会の一員となるに向けて、人間としてさらなる成長を図る。	最高学年としてリーダーシップを発揮し、積極的に高校生活を送り、下級生の模範となれるよう自覚を促す。 ・基本的な生活習慣について指導する。特に、在宅教育期間中の生活習慣を90%以上の生徒に確立させるよう、働きかける。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」を督励する。95%以上の生徒が朝食をとるように指導する。	A	A	A	平日の家庭学習時間が3時間以上の生徒は、65.5%であった。ほとんどの生徒が規則正しい生活をしており、学習時間や睡眠時間も確保できている。朝食をまったく摂っていない生徒はいない。基本的な生活習慣がほぼ確立された。	3年生になり、家庭学習の時間が確保されつつある。4時間以上確保できている生徒も42%近くおり、後輩に受け継いでいってほしい。「青翔で良かった」という思いを持ってくれた生徒が多かった。この伝統を後輩たちに引き継いでいけるように、改善を続けていきたい。	最高学年としての自覚を持ち、下級生の模範となってくれていた。特に、中学生に対しては優しく、ていねいに指導してくれていた。目標とした評価指標をほぼ達成したことはその裏付けでもある。
		学校行事を通して、学校や社会のルールやマナーについて考える機会を設け、一社会人として求められる規範意識と人間力の養成を図る。指標は、充実した高校生活を送れたと考える生徒の割合を80%以上とする。	A					
	進路目標の実現に向けた高い意識の養成と取組を実践し、個々の生徒の進路希望を尊重し、自己実現が可能な進路選択を援助する。	授業・HR・集会等の機会を利用し、生徒たちの進路実現に向けた意識を喚起する。また、面談等を充実させ、生徒の進路目標に合った指導を行う。コロナウィルス感染拡大の影響が極力出ないように指導する。	A	A				
		ステップアップ講座などの進路対策学習の継続的な取組を促し、積極的な姿勢で学習させる。進路の第一希望を実現する生徒の割合を80%以上、国公立大学への進学率が70%以上となることを目指す。	B					